

黒髪事業場の過半数代表者信任投票

10月1日に在職する熊大教職員は全員有権者です。

学長・理事・監事・非常勤講師・TA・RA・医員(パートタイム職員)の大学院生、派遣以外の方は全員有権者(有期雇用職員・再雇用職員を含む)です。

- ・投票期間:11月10日(金)~11月16日(木)
 - ・投票時間:午前9時~午後5時 (最終日は午後4時まで)
- ※ウェブ投票は、投票期間中にいつでも投票可能!

松瀬 憲司氏を支持してください。



(2023年度熊本大学教職員組合 執行委員長)

黒髪事業場の過半数代表者に立候補しました、人文社会科学部(文学系)、教育学部所属の松瀬憲司です。

3年にも及ぶ未曾有のコロナ禍が漸く落ち着きを見せ始め、それに対する国家レベルでの感染防止のための規制措置も緩和されてきて、これで(全く同じとはいかないまでも)ある程度これまで慣れ親しんできた労働・教育・研究の環境が戻ってくると期待していた矢先に、昨年からのロシアによるウクライナへの軍事侵攻に起因する様々な国際情勢の変化が物価高騰を引き起こし、我々の生活を直撃しています。

そんな中、人事院は2023年度国家公務員給与の月例給を平均0.96%、期末・勤勉手当を0.1月分、つまり4.4月から4.5月分に引き上げる勧告をしました。熊本大学はこれまで人事院勧告を参考に給与等を改定してきたので、今回の引き上げ勧告は是非ともそのまま受け入れるよう使用者側に強く求めていきたいと思えます。しかし、このことに留まらず、生活が非常に厳しくなっている現状や本学事務職員のラスパイレス指数が全国最低レベルであることに鑑みれば、予算や人員削減の結果生じている、教職員の過酷な労働実態を踏まえた、それに報いる一層の「働き方改革」の徹底および実質的待遇改善が必要であると考えます。

加えて、現在台湾の大手半導体メーカーの熊本進出に絡んで本学が様々な形で反応しようとしています。これは確かに本学にとって非常に大きな好機であるとは思いますが、その反面、特に黒髪地区の部局がそれにどのように関わっていくのかによって、所属教職員の更なる労働環境の変化等も懸念されますので、今後の流れを注意深く見守っていきたいと思っています。

黒髪事業場教職員の皆様からの信任が得られましたならば、他の事業場の過半数代表者とも協力して、熊本大学で働く全職種の方々の労働条件・環境の改善に向けて努力していく所存です。皆様には投票をお願いするとともに、「過半数」の信任をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

過半数代表者は、事業場の過半数の支持を得る必要があります。そのため、組合は、使用者が法的義務を果たせるよう、有権者の皆様に投票の呼びかけを行なってきました。**みなさまの一票が重要な意味を持ちます。**黒髪地区の皆様の“ご支持”を重ねてお願いいたします。

	熊本大学教職員組合(黒髪版)	
	No. 9 2023. 11. 10	内線:3529 FAX:346-1247 ku-kyoso@union.kumamoto-u.ac.jp http://union.kumamoto-u.ac.jp/